

小金井雑学大学

だより

第10号

平成11年12月13日発行

東京生涯学習ネットワークの誕生

十一月二十三日、国分寺の本町・南町地域センターにて設立総会が開催されました。ネットワークに正式参加団体は二十四団体、オブザーバー参加は七団体と予想以上の団体が集まりました。ほとんどは多摩地域で活動している市民団体ですが、都区内、埼玉、神奈川で活動しているグループも集まって盛会のうちに、総会は無事終了し、「東京生涯学習ネットワーク」は発足しました。

活動の柱は情報交換になると思いますが、事業計画はこれから役員会で立てていきます。生涯学習フォーラムの開催も案として出ていますが、具体的にはこれからの話し合いになります。こうした広域の事業に対しては、多摩交流センターからの補助も出る予定です。

設立当初の役員として、会長に「西東京雑学大学」の理事長であり、ネットワークの発案者である菅原範人さん、副会長として「T

A M A市民塾」の高原北雄さん、「国分寺いきがいやりの会」の吉谷忠男さん、「小金井雑学大学」の五十嵐の三人が承認され、理事として「いきいきライフ府中塾」の赤木さん、「武蔵野市西部生涯学習会」の今川さん、「語らい会」の竹村さん、「所沢雑学大学」の村上さんの四人が選出されました。

生涯学習の時代

一九八〇年代に、国が生涯教育・生涯学習のための答申を基にして指導し、行政主導で生涯学習センターなどがつくられてきました。それが、バブルの崩壊と高齢社会の到来で生涯学習の担い手は市民に移ったと言われています。その背景には上記の二つの原因だけでなく、環境の悪化や、バブル時代に見失いがちであった本当の豊かさ・心の豊かさ求める人々が増えたことがあると思います。

小金井雑学大学に來ている学生の皆さんも、仕事に一段落しそれまでとは違った別の生きがいを求めている方が多いように思います。

『生涯学習』と言う以上は本来であれば、子供時代から生涯を通して、働きそして学び、そして楽しんでという時間があるのが理想だと思いますが、現実には仕事に追われるのが実態でしょう。時間にゆとりができた時が最良の時です。その時に様々な知識を蓄え、心から楽しむ時間を共有できる友人をたくさん作っていただきたいと思うのです。ネットワークもその一助になれば幸いです。(五十嵐記)



第三十六回講義 十月三日

『ドイツ帝国とビスマルク』

教授 兵頭 信彦氏

ナポレオン戦争の後始末として

開かれたウィーン会議は、一九世紀初頭の国際会議であった。ウィーン体制下のドイツでは、三十五国と四自由市を併せた「ドイツ連邦」が組織されたが、これは統一的国家ではなく、従来から存続していた独立国家（領邦）の集合体で、この体制に反発して自由主義・国民主義運動が台頭すると、この機運はドイツ統一へと導かれる。統一運動の中心はプロイセン王国であった。一八三四年結成のプロイセン中心の「ドイツ関税同盟」は将来の統一への展望を開くものであった。一八六二年プロイセン首相となったビスマルクは国王ヴィルヘルム一世の絶大な信頼のもとに統一事業を推進し、偉大な戦略家モルトケ將軍の精密な作戦計画とあいまって、一八六六年普墺戦争でオーストリアを破り、プロイセンを盟主とした「北ドイツ連邦」を組織、統一への第一歩を

現した。ついで、統一を妨げる最大の障害であったフランスのナポレオン三世を、一八七〇〜七一年の普仏戦争で破って、遂に統一を実現、ここに「ドイツ帝国」を成立させた。

ドイツ帝国は、プロイセン王がドイツ皇帝を兼任し、外見は立憲主義的で、中央集権的、軍国主義的、官僚的、封建的性格を有し、その限りでは近代化にはまだ不徹底なものであった。日本の明治維新は一八六八年で、ほぼこの時期にあたる。絶対主義的体制を維持しながら、外見上の近代国家の道歩もうとした日本は、当然ながらこのドイツ帝国を範とせざるを得なかった。一八八九年（明治二十二年）公布された明治憲法は、日本独自の天皇中心の国家観が加味されているが、これはドイツ型立憲君主制をとりいれたものであった。また、ビスマルクの卓越した外交手腕や、モルトケの創設した参謀本部の組織、作戦指導、統帥権独立の在り方など、富国強兵の道をひたすら追い求めた日本の明治国家に大きな影響を与えている。

第三十七回講義 十月十七日

『小金井史跡めぐり』

（はけの道周辺）

教授 白井康敬氏

小金井 「黄金に値する豊富な

水が出る所」ということで黄金井
◆小金井という地名になったといわれている。小金井に人間が住み始めたのは今から一万年以上も前の旧石器時代で、奈良時代になつて府中に国府が置かれてから小さな集落ができ、小土豪が住んでいた。

六地藏 珍しく六角形の石灯ろうの各面に地藏尊が一体づつ彫られているもので、宝永四年（一七〇七）に造立された。彫られている地藏は地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天井の六道で、地獄や人間道の苦しみを救う仏たちが六地藏である。

金蔵院 真言宗派。永祿九年（一五六六）、阿闍梨曉存が中興の祖と言われている。境内には樹齢三百年以上の市内有数のケヤキとムクノキがある。

小金井小次郎の墓 文政元年（一八一八）、下小金井村の名主の

関家の次男として生まれる。波乱の人生。幕末の大俠客で、新門辰五郎の兄弟分と言われている。三宅島に長い間流刑されたが、帰った後再び島に渡り島の開発に尽くした。同じ墓地内に市内で最も古い寛文六年（一六六六）造立の庚申塚がある。

小金井神社 古くは「天満宮」と呼ばれており、社殿には元久二年（一二〇五）に住民が菅原道真を祭神として祭ったと書かれている。天正十一年（一五八三）、鴨下出雲入道勝重が現在地に移した。明治三年に「小金井神社」と改められた。境内には珍しい「臼塚」がある。明治三年に奉納された小金井の名刀の金井信重作の宝剑がある。

はけの小路 国分寺崖線と呼ばれる崖地のこと。大岡昇平の小説『武蔵野夫人』の舞台。

中村研一記念美術館 日本のアカデミズムを確立した傑出した洋画家・故中村画伯の油彩画を展示。美術館裏の「美術の森」内の喫茶室は、研一が愛用した茶室「花侵庵」（花の香りが侵入する庵の意）そのものである。

第三十八回講義 十一月七日
『中国の経済・社会と
国民の生活』

教授 井手俊弘氏

中国は建国五〇年を迎え、この一〇月一日には建国五〇年の記念行事が行われた。この五〇年の間、毛沢東首席が政治の主導権を握った一九四九年から一九七六年までの前半は、農民を中心としたユートピア的社会主义建設の時代で、インテリは迫害され、全国民が等しく「足らざるをうれいず、均しからざるをうれいず」という平均主義の時代であった。

しかし、一九七八年からの二〇年間は鄧小平主席の改革・開放の時代で、条件の良い地域が先ず豊になり、後発地域を引き揚げるという先富論によるもので、この二〇年間の平均成長率は九・八％という大きなものであった。しかしその反面、都市と農村、地域間、個人所得等の格差拡大というマイナスの影響を示している。国民の生活も、五〇～七〇年代の消費物資の割当制から一変して、耐久消費財の普及率も大きく伸びている

中国は、現在一人っ子政策を取っており、出生率も低下し、人口増加率も一・一％まで低下しているが、なお人口の増加の趨勢は続き、二〇五〇年には約二〇％―二億八千万人に達すると予想される。一人っ子政策の影響もあり、一人で六人を扶養することとなる。誰が高年齢者を扶養するかは、現在中国でも大きな問題となっており、社会保険等の社会保障制度のレベル・アップ、家族による扶養、高齢者の再就職による自活などが検討されている。しかし、現在の中国の企業は赤字をかかえて、負担すべき社会保険料も滞っていることや、これまでの大家族による相互扶助が、特に都市部を中心に核家族化してきていることなどから課題は大きいと言える。

第三十九回講義十一月二一日
『誰にでもよくわかる漢詩・
漢文教室―中国の詩歌』

教授 田部井文雄氏

『詩経』は中国最古の詩集である。ここではまず、その中から次の五編を取り上げよう。

①関雎Ⅱ「すばらしい娘は、すばらしい男の妻となるのが、この世の定め」とし、その理想のカップルの誕生のためには、男性の熱い情念を必須のものとすると歌う「求婚」の歌。

②桃夭Ⅱ「燃え立つばかりの紅い桃の花のように美しい娘は、婚家先でもさぞかし幸せいっぱいになるに違いない」とくり返す「祝福」の歌。

③陟岵Ⅱ戦場の兵士が、故郷の家族を思いやり、その声なき声に耳を傾ける「望郷」の歌。

④君子于役Ⅱ出征して帰らぬ夫を待ちわびる妻の「想夫恋」の歌。

⑤碩鼠Ⅱ重税を課する君主を、大ねずみにたとえて、その国を脱出したいと「怨訴」する歌。

以上の五首の主題を、ここには「求婚・祝福・望郷・想夫恋・怨訴」として理解した。このようにして、『詩経』の三百五編を通読するならば、そこには、人生の哀歓のすべてが凝縮され、網羅されているといつてよい。

また、たとえば、①の『詩経』

冒頭の詩は、わが『万葉集』開巻第一の長歌、雄略天皇の「妻問い」の歌に酷似しており、③の歌は、近代の女流詩人と謝野晶子の「君死にたまふことなかれ」の反戦詩を生む契機となつてもいゝはずである。

この黄河流域の北方文学の総集に対して、長江流域の南方文学の総集は『楚辞』である。ただし、今回は、市内の名園「滄浪景園」の名称が、これに基づくことの指摘にとどめた。それよりも、紀元前三世紀末の英雄項羽の悲歌と、前一世紀の帝王、漢の武帝の「秋風の辞」とを紹介したかったからである。いかなる一代の英傑・独裁の天子といえども、免れ得ないのは、孤独と死である。かくして人生有限の悲しみ、すなわち「無常」は、人間永遠の詩のテーマとして、今に生き続けることとなった。

今後のカリキュラム

1 2月19日 「歌はジャンルを越えてーなつかしい叙情歌も」

星野 正行氏（下八川圭祐氏ほかに師事）

・講義の後、懇親会を予定しています。参加費は実費300円。

1月16日 「苗字のあれこれ」 坂内龍雄氏（小金井史談会会員）

2月 6日 「健康日本21ー21世紀における国民健康づくり運動」

長野みさ子氏（府中小金井保健所所長）

④場所が変わります。後日連絡いたします。

2月20日 「同化ユダヤ人の反シオニズム感情ー世紀末ウィーン社会の一断面」

村山 雅人氏（國學院大学教授）

3月 5日 「小笠原流礼法の起源と現代のマナー」

川上 菱玉氏（小笠原流礼法総師範）

④場所が変わります。後日連絡いたします。

・教室は小金井工業高校会議室（スリッパをご持参下さい）。 時間は午後2時～4時。

・学生登録は、年会費2000円。 カリキュラムや学報をお送りします。

著書紹介

『漢文名作選3 古今の名詩』 田部井文雄氏（本学学長） 大修館書店

『落ちこぼれてエベレスト』 野口 健氏（第32回教授） 集英社

『シェイクスピア食べものがたり』 今川香代子氏（第7回教授） 近代文芸社

編集後記

二〇〇〇年まで残すところ後二週間ほどになりました。数字だけ見ても一九九九年よりは良い年になりそうな気がするのですが、はたしてどうでしょうか。

来年も、今年同様どうぞよろしく
お願い申し上げます。（五十嵐記）

発行責任者 五十嵐京子

小金井市本町二

☎FAX

（夜間）



（10月17日史跡めぐり）